

# 住民意識調査とりまとめ(要旨)

平成19年11月2日  
第1回北陸圏広域地方計画懇談会

# 調査概要

## 居住者アンケート(概要)

### ○ 目的

北陸圏(富山県、石川県、福井県)の居住者に、日頃の豊かさや暮らしやすさについての満足度等を聞くとともに、北陸圏の将来の姿についてのご意見を聞く。

### ○ 調査対象

対象: 北陸3県の満20歳以上の居住者  
目標回収数: 各県約400票

### ○ 調査方法: インターネットによるアンケート

### ○ 調査期間: 平成19年9月27日～9月28日

#### (1)「豊かさ」「暮らしやすさ」に対する住民の視点の確認

- ①「豊かさ」についての住民意識
- ②「暮らしやすさ」についての住民意識

#### (2) 広域地方計画の方向性に関する住民意向の把握

- ③「北陸の地域イメージ」についての住民意向
  - A: 現在優れている・誇りに思うものとその度合い
  - B: 今後外部に発信していくべきと思うもの
- ④「北陸の産業」についての住民意向
  - A: 現在優れている・誇りに思うものとその度合い
  - B: 今後より一層高めていく(ブランド化)べきと思うもの
- ⑤「北陸の将来像」についての住民意向

## 出身者アンケート(概要)

### ○ 目的

三大都市圏に在住の北陸圏出身者が、北陸圏において二地域居住や定住を進めていく上での北陸圏の魅力や課題について聞く。

### ○ 調査対象

対象: 三大都市圏(※1)在住の北陸3県出身者(※2)の満20歳以上の居住者  
目標回収数: 合計約400票

### ○ 調査方法: インターネットによるアンケート

### ○ 調査期間: 平成19年9月27日～9月28日

#### (1) 二地域居住や定住に関する北陸出身者の意向の把握

- ①「北陸の地域イメージ」についての住民意向
  - A: 現在優れている・誇りに思うものとその度合い
  - B: 今後二地域居住や定住する上で重視していくべきと思うもの
- ② 二地域居住や定住の意向
  - A: 二地域居住や定住先の地域
  - B: 二地域居住や定住先としての北陸圏の魅力や強み
  - C: 二地域居住や定住先としての北陸圏の問題点
  - D: 北陸圏への二地域居住や定住の意向と形態

#### (2) 広域地方計画の方向性に関する北陸出身者の意向の把握

- ③「北陸の将来像」についての意向

※1 三大都市圏: 本調査では以下の都府県を指す。

首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)、近畿圏(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)、中京圏(愛知県・岐阜県・三重県)

※2 北陸出身者: 20歳までの期間のうち、最も長く居住した県が北陸3県のいずれかの者

# 回答者概要

## 居住者アンケート(回答者)

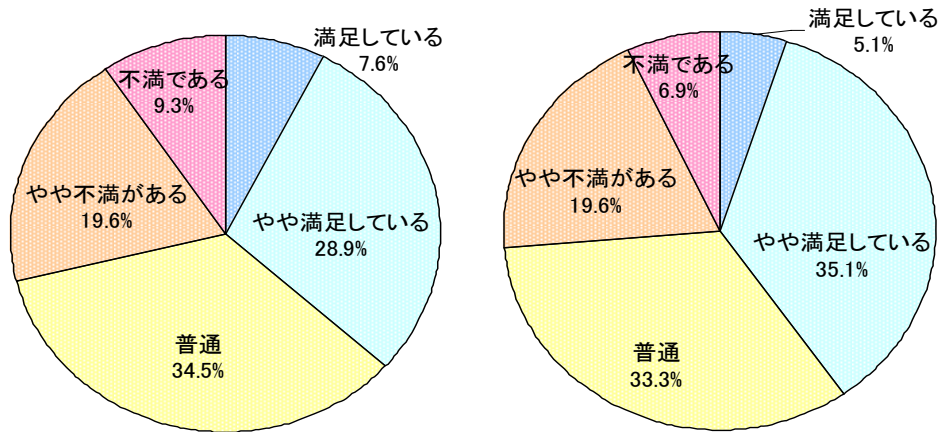
年齢	性別	居住県(票)			合計 (票)	分布構成比	
		富山県	石川県	福井県			
20代	男	24	20	26	70	6%	15%
	女	33	34	43	110	9%	
30代	男	59	42	59	160	13%	30%
	女	63	63	83	209	17%	
40代	男	45	41	53	139	11%	22%
	女	45	41	53	139	11%	
50代	男	79	82	44	205	16%	25%
	女	36	50	28	114	9%	
60代以降	男	21	38	18	77	6%	8%
	女	10	4	7	21	2%	
合計		415	415	414	1244	男:52% 女:48%	

## 出身者アンケート(回答者)

年齢	性別	居住県(票)			合計 (票)	分布構成比	
		首都圏	中部圏	近畿圏			
20代	男	13	10	10	33	8%	21%
	女	15	18	23	56	14%	
30代	男	12	13	10	35	8%	31%
	女	32	35	27	94	23%	
40代	男	17	12	6	35	8%	17%
	女	14	12	10	36	9%	
50代	男	35	6	10	51	12%	19%
	女	15	3	8	26	6%	
60代以降	男	22	5	7	34	8%	12%
	女	11	0	3	14	3%	
合計		186	114	114	414	男:45% 女:55%	

# 居住者 アンケート (総論)

- 北陸圏の居住者では現在の「豊かさ」「暮らしやすさ」について、「満足」「やや満足」の合計が「不満」「やや不満」の合計を上回り、総体的には満足している者が多い。



現在の生活の豊かさ(Q5)

現在の暮らしやすさ(Q8)

- 暮らしやすさの設問では、強みを伸ばすだけでなく、現時点で不足している項目(弱み)についても今後の充実を要望する場合も多い。 → p5, p8

- 特に弱みの克服として「公共交通の充実」が顕著にあげられている。

- 全体的には3県とも、類似した傾向にあるが、現状認識では、県ごとの特性が出ているものもある。 → p9, p10

- 現状認識の部分では、各県による若干の相違が見られ、特徴的に評価(相対的)されているものとしては、以下等がある。
  - ・富山県・・・産業集積
  - ・石川県・・・伝統文化、都市的サービス
  - ・福井県・・・子育て環境
- 相違点よりも共通点が多く、特に今後の方向性は、ほぼ一致

- 「豊かさ」「地域イメージ」「産業(地域資源)」等の項目では、現状認識で評価の高いものを将来とも伸ばすということを選択する傾向にある。 → p4, p6, p7, p8

- 基本的には、自分達の認識している「強み」を今後とも強化することが必要と考える回答が多い。
- 一方、現状での「弱み」に対して克服することを必要とする意見は少なく、現状を前提とした価値観が形成されている。
- 各設問に共通した「強み」としてあげられているものは「豊富な食料資源(食文化)」と「豊富な自然」の2点であり、この2点が住民の捕らえている北陸の「強み」であり、さらに今後より一層充実・強化を図っていく上でのキーワードとなっている。

- 同じ設問を三大都市圏在住の北陸出身者に行ったケースでは基本的な傾向は類似している。 → p6, p8

- 特に将来像では、ほぼ一致している。
- 地域イメージについては、出身者の方が若干良いイメージを持っており、特徴的な事項に対する評価が高い。
- 居住者ではあまり強く意識されていない「雪に対する生活文化や食文化」「歴史遺産」「伝統産業」について、出身者では比較的高い評価がなされている。

# 居住者 アンケート（生活の豊かさの満足度と重要度）

## 【結果概要】

- 「経済的なゆとり」を除けば、北陸圏の居住者にとっての生活上の豊かさの重要度と満足度は概ね相関関係を示し、経済面以外では価値観に合致した満足が得られている。
- 「家庭生活の充実」や「おいしく安全な食生活」「豊かな自然環境での生活」「子育て環境」「自由な時間」の5者が、両指標とも高いポイントを示し、北陸圏の居住者における生活上の豊かさの特質となっている。
- 一方、重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目には、「経済的なゆとり」や「仕事上のやりがい」といった産業・経済の活力に関連するものや「高水準の医療・福祉」「余暇活動の機会・施設」等の高齢化社会への対応を必要とするものがみられる。



## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) **豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境**などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な**生活、就業、交流**などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

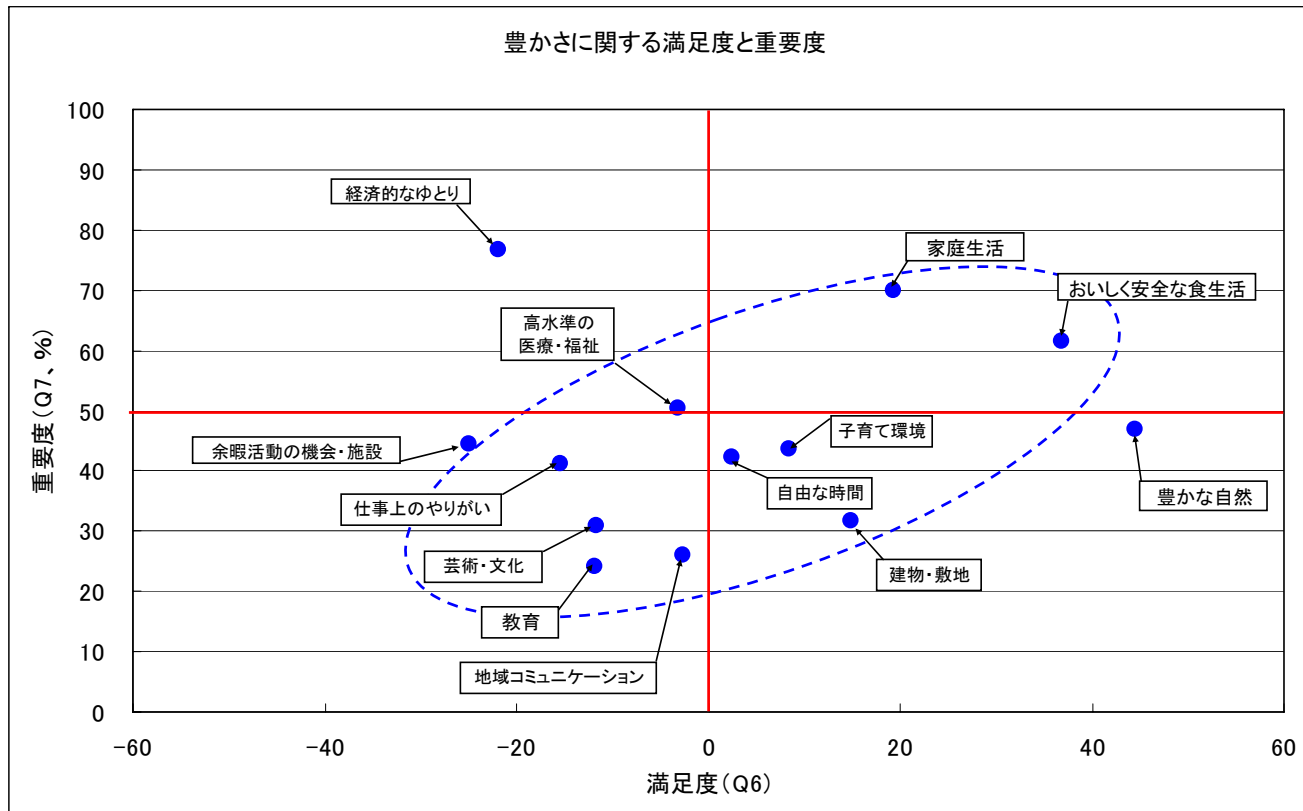
※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

### 重要度も満足度も高い項目

- ・豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然: 「豊かな自然環境での生活」
- ・子育てしやすい優れた住環境: 「子育て環境」「家庭生活の充実」「おいしく安全な食生活」「自由な時間」

### 重要度は高いが、満足度が低い項目

- ・生活: 「高水準の医療・福祉」
- ・就業: 「経済的なゆとり」「仕事上のやりがい」
- ・交流: 「余暇活動の機会・施設」



満足度はそれぞれ以下の点数の荷重平均。

- 満足 (+100)
- やや満足 (+50)
- どちらでもない(0)
- やや不満 (-50)
- 不満 (-100)

重要度は回答選択率

(= 選択回答数/全回答者数)

# 居住者 アンケート（暮らしやすさの満足度と重要度）

## 【結果概要】

- 暮らしやすさに関する評価では豊かさの評価と異なり、重要度と満足度の相関性がみられず、**重要なものであっても満足していないものが多い。**
- 特に**公共交通機関**については、重要度は高いものの満足度が極めて低く、今後の高齢化社会等を踏まえた対応が必要とされる。また、**重要度が高いにも関わらず、比較的満足度が低いものとして「物価」「買い物」「除雪」といった日常生活の利便性や「災害時の安全性確保」「交通事故」といった安全性に関するもの**が多かった。
- 一方、**重要度・満足度とも高い項目として、「治安の良さ」、「病院・学校等の近さ」「自然災害の少なさ」「公害・衛生環境」**等があり、これらの強みの活用を図るためにも、前者であげられている利便性や安全性への対応が重要である。
- なお、北陸の暮らしやすさの指標として用いられることの多い「家屋の広さ」は満足度は高いものの、居住者での重要性はあまり高くない。



## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) 豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい**優れた住環境**などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、**安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流**などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

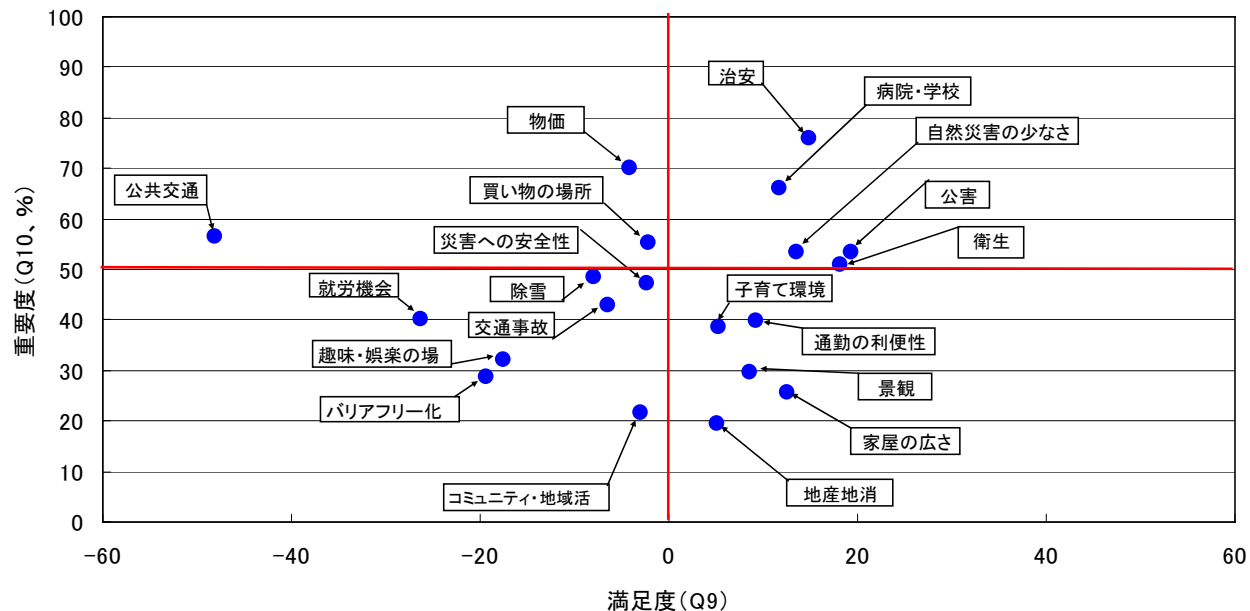
### 重要度も満足度も高い項目

- ・優れた住環境:「治安の良さ」「病院・学校等の近さ」「自然災害の少なさ」「公害・衛生環境」「通勤の利便性」

### 重要度は高いが満足度が低い項目

- ・安全・安心:「除雪」「災害時の安全性確保」「交通事故」
- ・生活:「物価」「買い物の場所」「子育て環境」
- ・就業:「就労機会」
- ・交流:「公共交通」「買い物」

暮らしやすさの満足度と重要度



満足度はそれぞれ以下の点数の加重平均。

- 満足 (+100)
- やや満足 (+50)
- どちらでもない(0)
- やや不満 (-50)
- 不満 (-100)

重要度は回答選択率  
(= 選択回答数/全回答者数)

# 居住者・出身者 アンケート

## (北陸の現在の圏域イメージと今後より一層充実させる圏域イメージ)

### 【結果概要】

- 北陸圏の現在の圏域イメージと今後より一層充実磨きあげるものの間には、明確な相関が見られ、居住者の意向はでは弱みを克服することより、**強みを磨きあげる**ことを選択する傾向にある。
- 中でも「海・山・川が近く、四季折々に豊かな自然が楽しめる」や「おいしい水や農水産物」の2点があげられ、これらは「生活の豊かさ」の設定でも評価されていた項目であり、**北陸の強みを表すキーワード**として捉えることができる。
- なお、「公共交通機関の充実」については、現在の圏域イメージとしては極めて希薄(最下位)ながら、今後充実させていくべき項目では比較的上位に位置づけられており、くらしやすさに関する評価と同様、この点の充実が強く望まれている。



### 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) **豊かさ**と**変化に富んだ特色を持つ自然**、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が**重層的に共存するコンパクトな地域を形成**し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

今後より一層充実磨きあげることが望まれるもの

・豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然: 「海・山・川が近く、四季折々に豊かな自然」

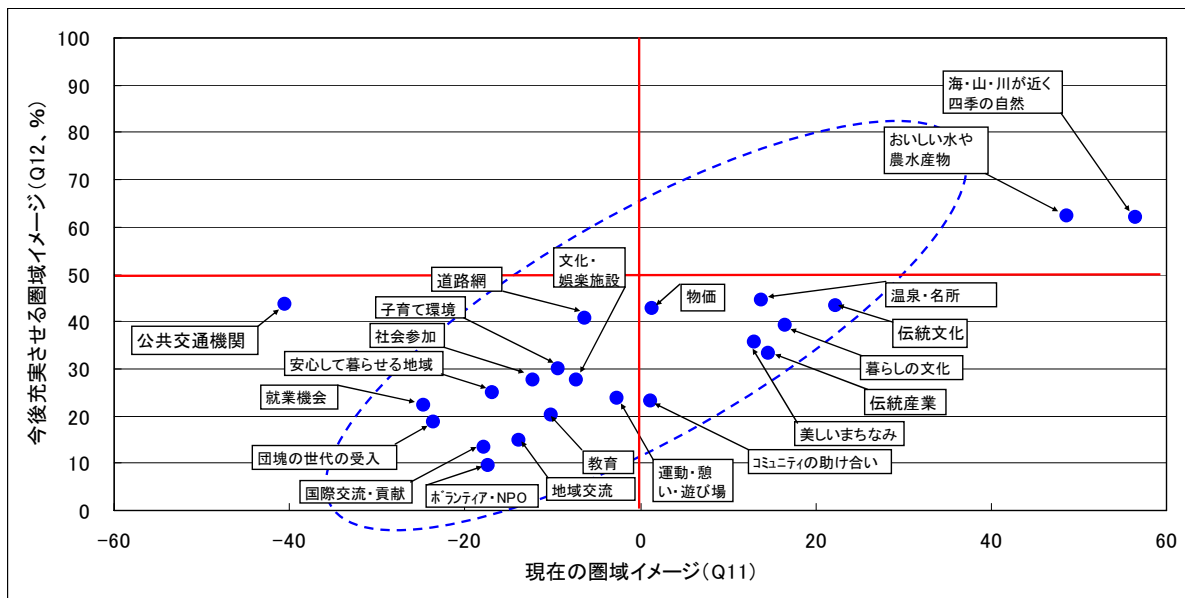
「おいしい水や農水産物」

・重層的に共存するコンパクトな地域を形成: 「海・山・川が近く、四季折々に豊かな自然」

(戦略目標1-(4)) 豊かで多様な自然、賑わいあふれる都市が共存する**接続型都市圏**の形成

(戦略目標1-(5)) **安心**とゆとりのある農山漁村の暮らしの充実

※上記の戦略目標の中で「公共交通機関の充実」について記載予定

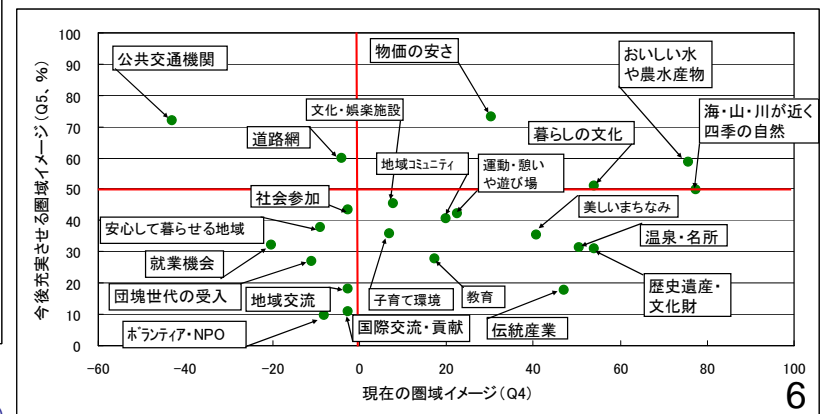


【北陸圏居住者の回答】

現在の圏域イメージは、満足度と同様、それぞれ重要度は回答選択率(=選択回答数/全回答者数)(+100),(+50)(0),(-50),(-100)で荷重平均。

### 【出身者回答】

- 北陸出身者の回答では、**全体的に良いイメージ**を持つ傾向があるとともに、**項目間の差異も拡大**している。
- 「豊富な自然」「豊富な農水産物」の**プラス評価**や「公共交通機関」に対する**マイナス評価**は居住者と類似している。
- 「雪との生活等の暮らしの文化」や「歴史遺産」「観光地」等の**イメージが良いこと**や「物産の安さ」の**アピール**、「圏域内の道路網の充実」等の北陸を離れて認識される項目もあり、これらの意見も貴重である



【出身者の回答】 指標は居住者に準じる

# 居住者 アンケート（地域資源の評価と今後の活用）

## 【結果概要】

- 北陸の地域資源として、現在の評価と今後力を入れていくものの間でも、回答間には相関が見られ、総論的には現在の強みをより強化することが必要とする意見が多い。
- この中で「豊富な農水産物や食文化を生かしたブランド食品」や「優れた自然・歴史・伝統・文化等の観光資源を生かした観光による地域づくり」に高い支持がみられ、各設問共通の「食」と「自然」がここでも北陸の特性を表すキーワードとなっている。



## 【方針・戦略目標との関係】

（戦略目標2-（3））食料・木材等の安定供給と食文化を生かした農林水産業の多角的な展開

※アンケート結果と赤字部分（反映箇所）との関連性

地域資源としての評価が高く、今後活用していくことが望まれるもの

- ・食文化を生かした農林水産業の多角的な展開：「豊富な農水産物や食文化を生かしたブランド食品」

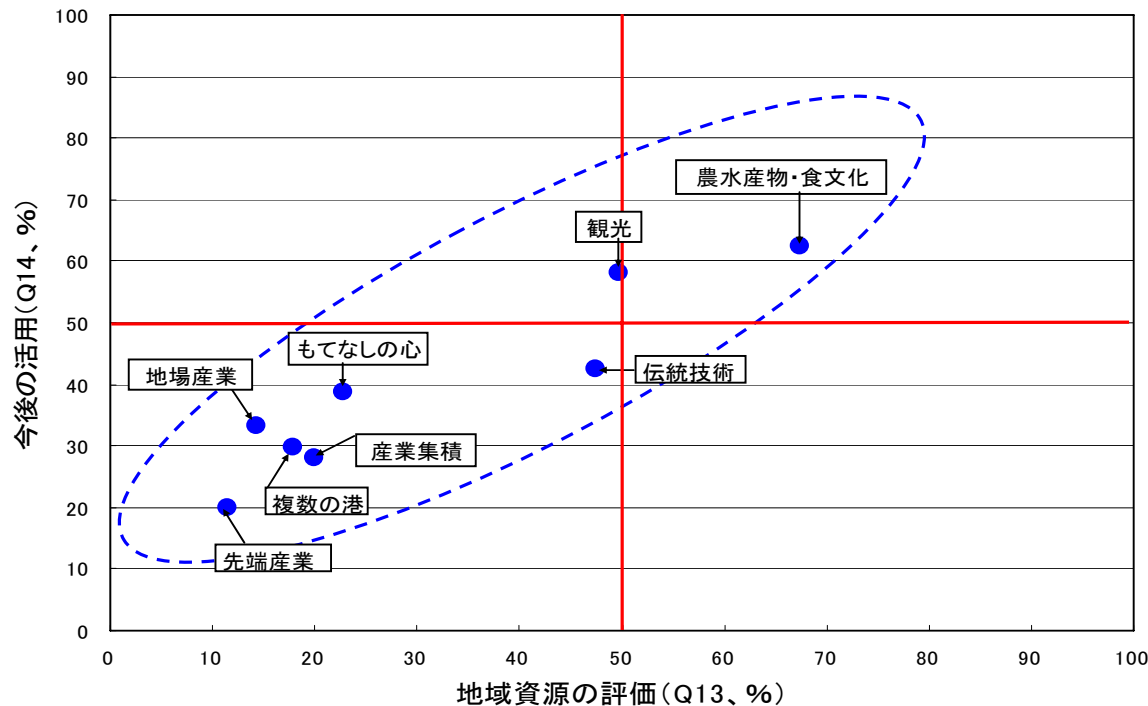
（戦略目標4-（1））全国や環日本海諸国をはじめ諸外国との観光・交流の充実

※アンケート結果と赤字部分（反映箇所）との関連性

地域資源としての評価が高く、今後活用していくことが望まれるもの

- ・観光・交流：「優れた自然・歴史・伝統・文化等の観光資源を生かした観光による地域づくり」

地域資源の評価と今後の活用



指標はそれぞれ回答率



# 居住者・出身者 アンケート (将来の北陸圏の目指す姿)

## 【結果概要】

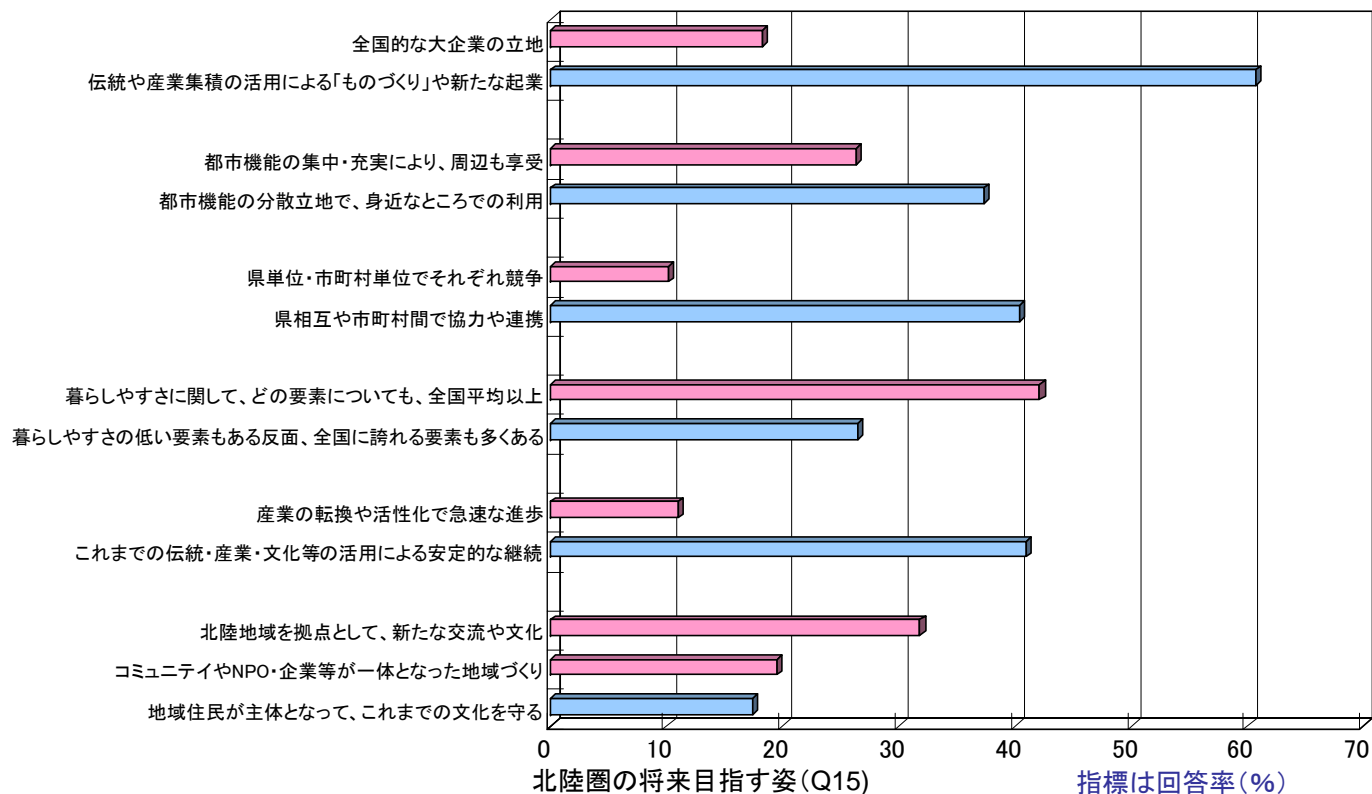
- 最も多かった回答としては、「**伝統や産業集積の活用によるものづくりや新たな起業**」についての意向が強く、地域資源としては意識が少なくとも、今後の地域づくりにおける産業機能への期待が現れている。
- 圏域の目指すべき将来像の設問のうち「**これまでの蓄積・強みを生かす**」方向(下図青色)での地域づくりを支持する者が、「**新たな視点・方策の導入により弱みを克服する**」方向(下図桃色)よりも多く見られた。特に**産業機能の面**や**自治体間の連携の面**でこの傾向が強く、「都市機能の分散立地による身近な利用」も比較的多かった。
- 一方、暮らしやすさの面については「**全ての項目で全国平均以上**」を目指すという形で「**弱みの克服**」を図ることを望む回答の方が多かった。また、今後の地域・文化の担い手としては、「**国内外からの交流による新たな文化の創造**」を望む回答が多かった。

## 【方針・戦略目標との関係】

(位置づけ) 豊かで多様な自然、魅力ある都市や農山漁村、**活力ある産業が共存した、圏域内の連携と域外・国外との交流により我が国の持続的な発展を先導する、日本海国土軸の中核圏域**

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性  
北陸圏の将来目指すべき姿として高く望まれているもの

- ・活力ある産業:「**伝統や産業集積の活用によるものづくりや新たな起業**」
- ・共存:「**都市機能の分散立地で、身近なところで利用**」
- ・圏域内の連携:「**県相互や市町村間で協力や連携**」
- ・交流・日本海国土軸の中核圏域:  
「**北陸地域を拠点として、新たな交流や文化**」
- ・持続的な発展:  
「**これまでの伝統・産業・文化等の活用による安定的な継続**」
- ・先導する:「**暮らしやすさに関して、どの要素についても全国平均以上**」

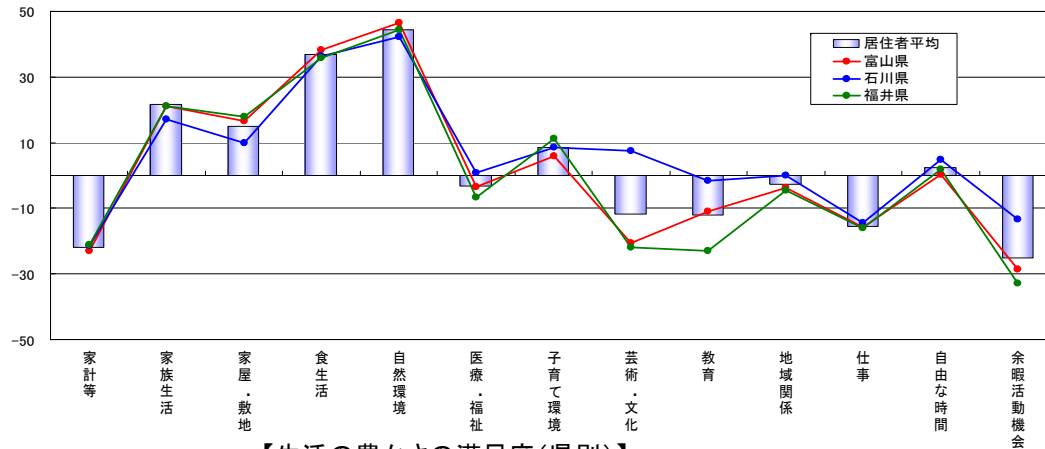


なお、出身者の回答はほぼ、同じ傾向を示した。

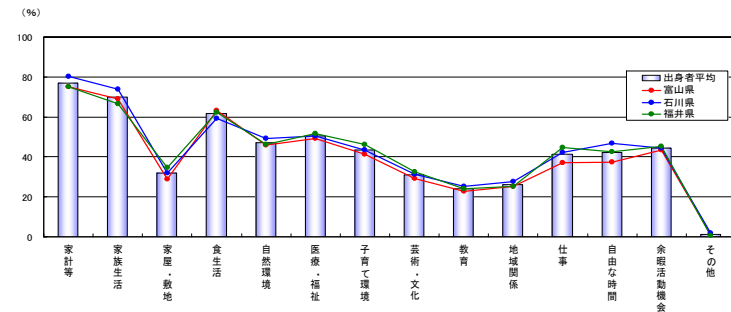
# <参考> 居住者 アンケート（県別特性(1)）

## 【結果概要】

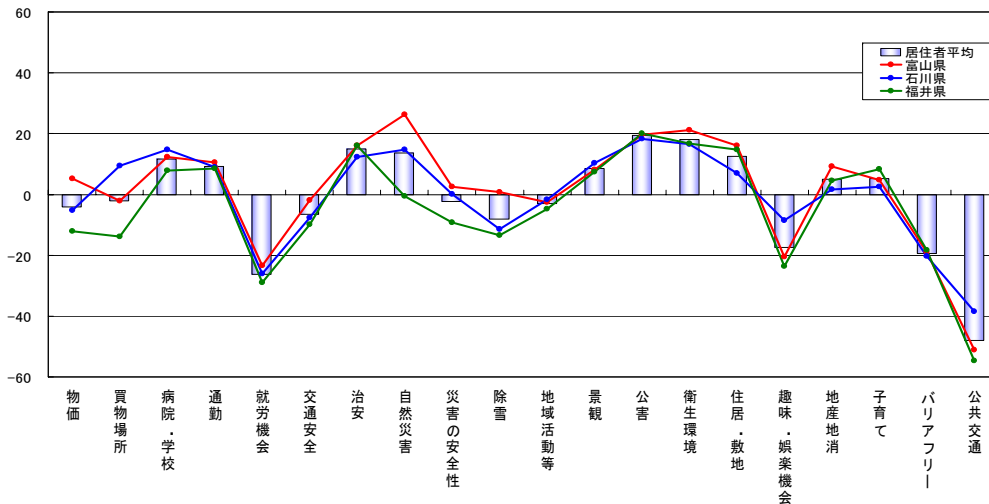
- 豊かさ・暮らしやすさの満足度とも、3県とも全体的に類似しているが、次の点が各県で特徴的にあげられている。
  - ・ 豊かさの満足度 …… 石川県で「芸術・文化に接する機会」の満足度が高いとともに、「教育機会」「余暇活動の機会等」での不満が低い。
  - ・ 暮らしやすさの満足度 …… 富山県の「自然災害の少なさ」、石川県の「買物場所」、福井県の「子育て環境」等が比較的満足度が高い。
- 豊かさ・暮らしやすさとも、重要視する項目では県ごとの傾向の相違は少ない。



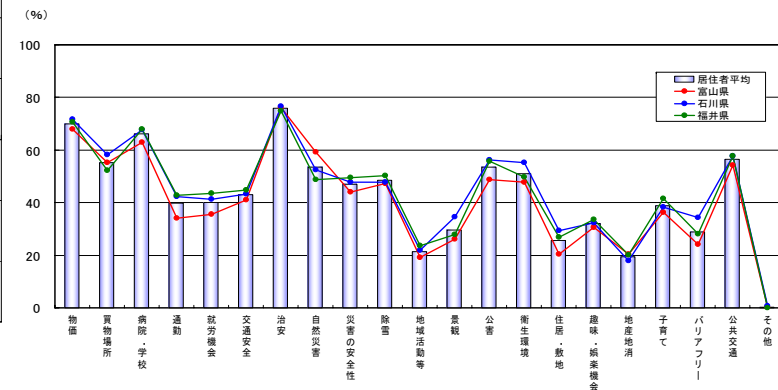
【生活の豊かさの満足度(県別)】



【生活の豊かさで重視する項目(県別)】



【くらしやすさの満足度(県別)】

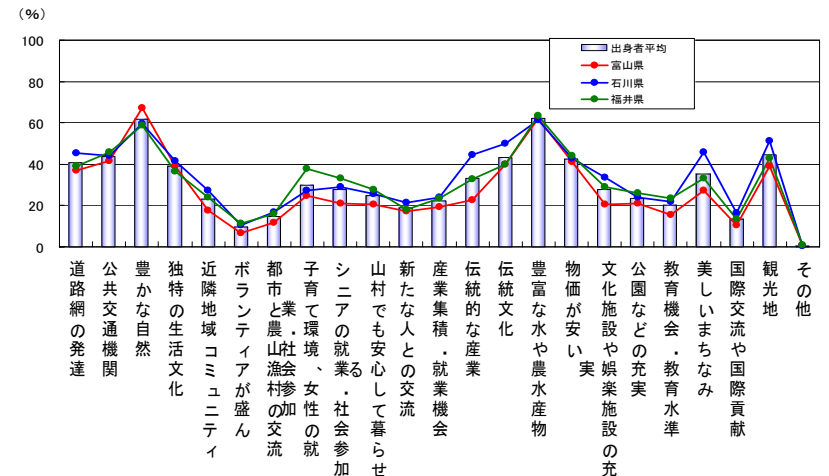
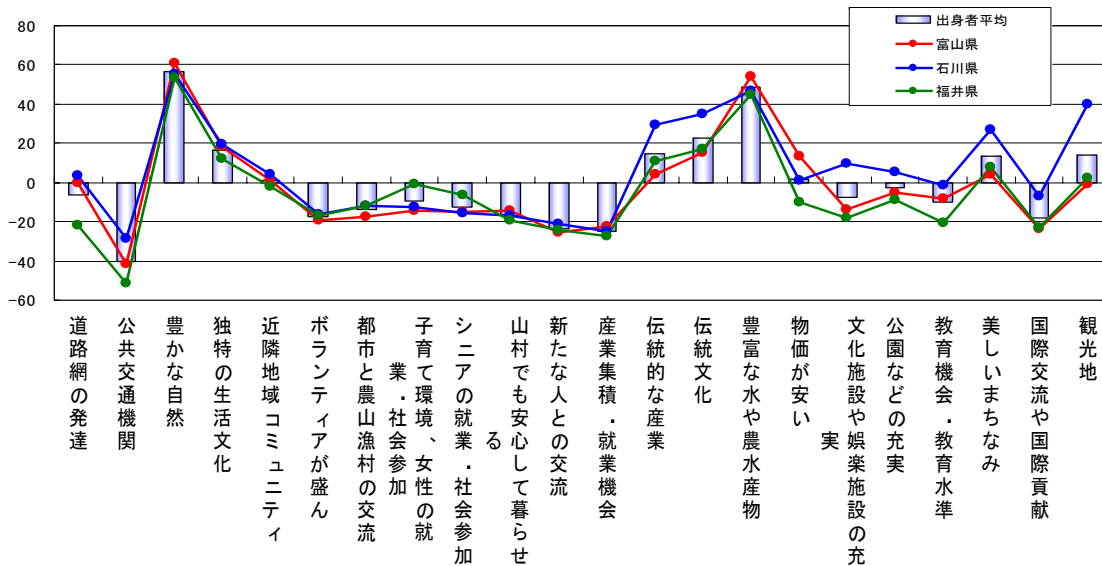


【くらしやすさで重視する項目(県別)】

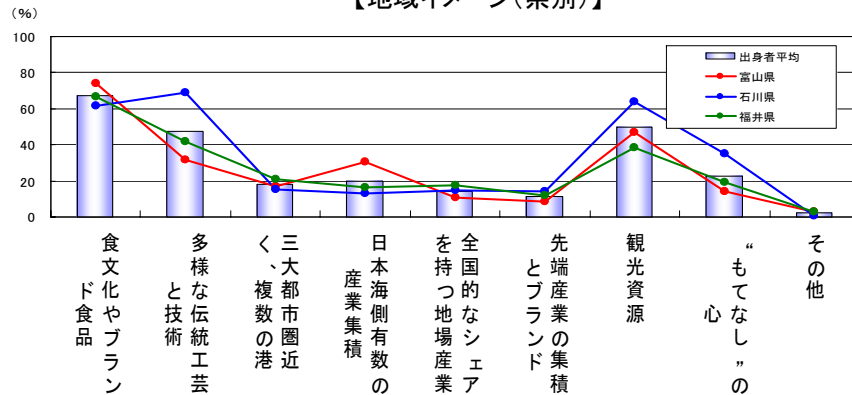
# <参考> 居住者 アンケート（県別特性(2)）

## 【結果概要】

- 地域イメージや地域資源の設問でも、特に現況の評価の点では県別の特性がみられ、次の項目が相対的に評価されている。
  - ・地域イメージ … 石川県の「伝統・文化」「伝統産業」「観光資源」等、福井県の「子育て環境・女性就業等」
  - ・地域資源 … 富山県の「産業集積」、石川県の「伝統工芸」「観光資源」等
- 今後発信していくイメージや活用すべき地域資源については、上記の特性は若干残るものの県別の相違は少なくなっている。

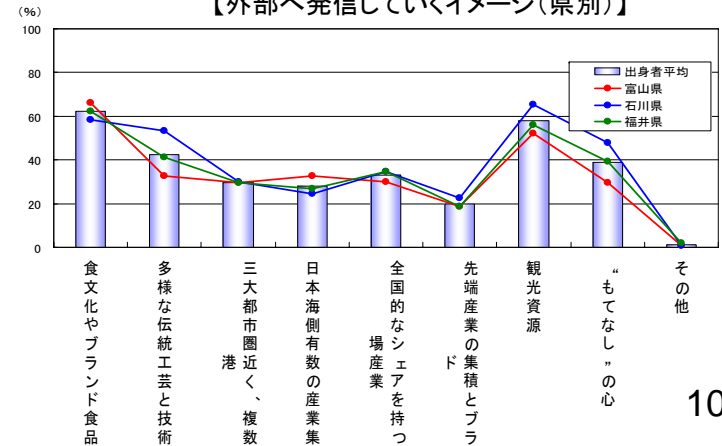


【地域イメージ(県別)】



【地域資源・知名度(県別)】

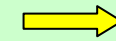
【外部へ発信していくイメージ(県別)】



【活用すべき地域資源・知名度(県別)】

# 出身者 アンケート（総論）

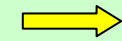
- 都市地域へのU、Jターンを中心とした二地域居住の潜在需要が比較的高い。



p12,p13

- 北陸圏への二地域居住・定住のいずれかについて、潜在需要を示す者が70%以上あった。
- 二地域居住・定住への潜在需要は、若い世代ほど割合が高くなっている。
- 二地域居住・定住とも、都市及びその周辺への需要が高く、若い世代ほど、また定住でこの傾向は顕著である。
- ただし、50代以上の二地域居住先では、海辺や温泉・観光地に対する指向も比較的みられた。

- 二地域居住・定住にあたっての課題は都市的サービスと就労の場の充実とする回答が多い。



p14,p15

- 二地域居住・定住先としての北陸圏域の魅力は「治安」「自然・街並み」「公害の少なさ」「建物や敷地の広さ」等があげられる。
- 障害としては、都市的サービスの不足と就労環境の2つの視点が特徴的に上げられており、特に定住での障害として顕著。
- 障害に対する回答は、二地域居住または定住を「したい」とする者で多く回答されており、より現実的な課題と考えられる。

- 今後望まれる圏域づくりでは、二地域居住と定住の共通事項が多いが、それぞれの目的別に特徴的な項目も見られる。



p16

- 共通テーマでは、「物価が安い」「公共交通機関の充実」「おいしい水や農水産物」「道路網の充実」といった点があげられている。
- 定住に特徴的な項目では、「雪に対する工夫」「シニア世代の就業や社会参加」「子育て環境」「産業集積」「文化施設・娯楽施設等」「教育の機会・施設」等の日常生活に密接した機能や機会の充実が必要とされている。
- 二地域居住では、「観光の充実」や「美しいまちなみ」といった、どちらかといえば非日常的な機能の強化も求められている。

# 出身者 アンケート（二地域居住・定住意向）

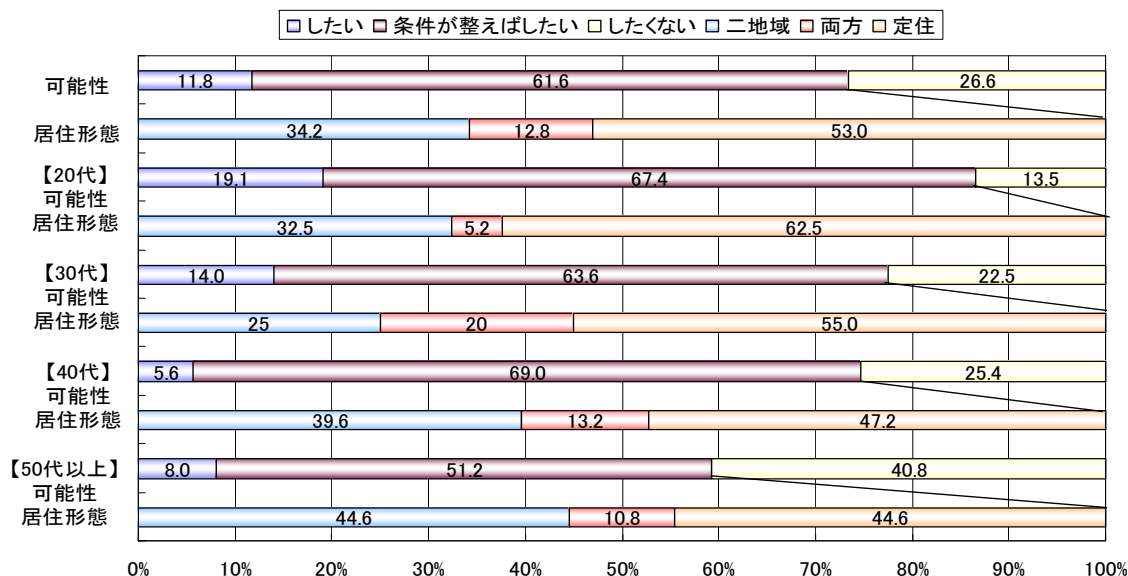
## 【結果概要】

- アンケート結果では、二地域居住・定住のいずれかについて、「したい」または「条件を整えばしたい」の両者をあわせると、合計で**70%以上**であり、出身者におけるこれへの**潜在的希望**は多い。
- これらの二地域居住・定住の希望は**若い世代ほど割合が高くなっている**。
- 居住形態としては**定住形態の要望が多いが、50代以上では、二地域居住と定住がほぼ同程度**となっている。
- 都市圏別では、中京圏居住者の要望が若干高いが、**顕著な相違はみられない**。

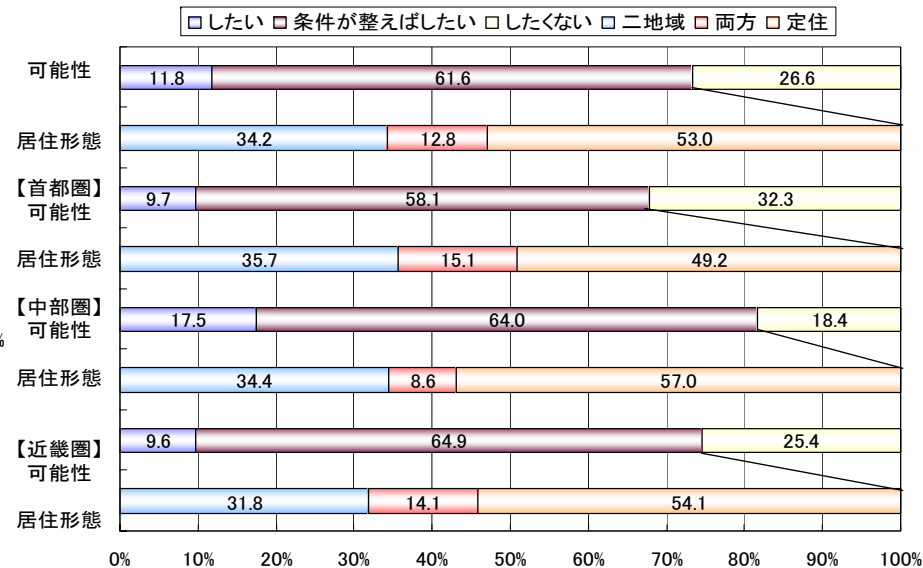
## 【方針・戦略目標との関係】

（方針4） 地域文化（力）で育まれる国内外との**交流の創出**

※アンケート結果と赤字部分（反映箇所）との関連性  
 ・交流の創出：二地域居住・定住の潜在的希望は多い



二地域居住・定住意向と居住形態（年代別）



二地域居住・定住意向と居住形態（都市圏別）

# 出身者 アンケート（二地域居住・定住先）

## 【結果概要】

- 二地域居住・定住とも、都市のまちなかや都市・農村の中間に対する希望が多く、一定程度の利便性の確保された都市地域に対する需要が高いことが伺われる。特にこの傾向は定住で顕著である。
- 年代別では、20代・30代の都市またはその周辺への指向が高い。
- 一方、50代以上の二地域居住先としては都市部だけでなく、海辺や温泉・観光地に対する指向も比較的強いが、50代以降でも定住先としては、都市及びその周辺がほとんどを占める。

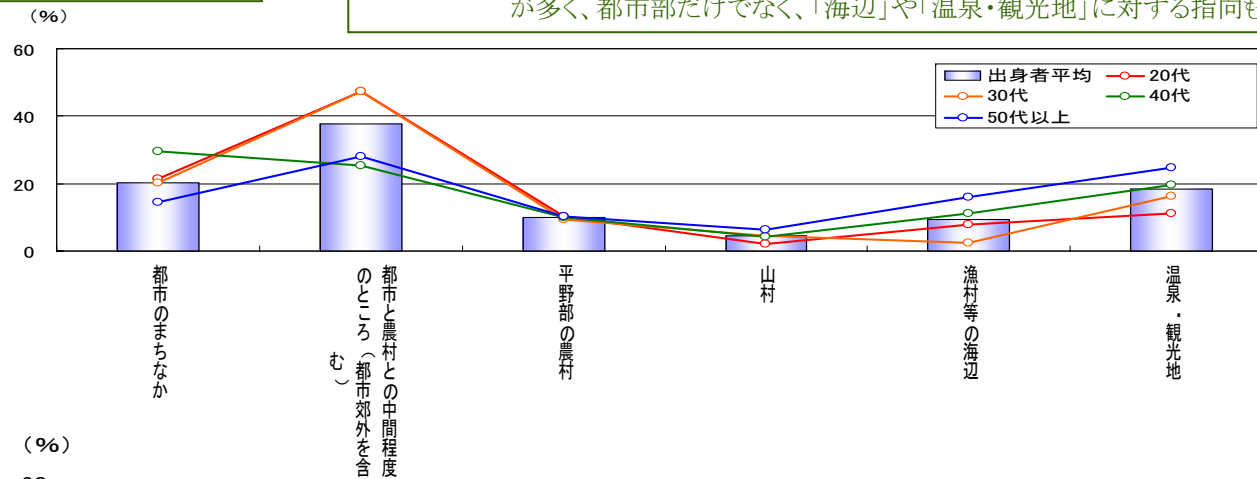
## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像) 豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

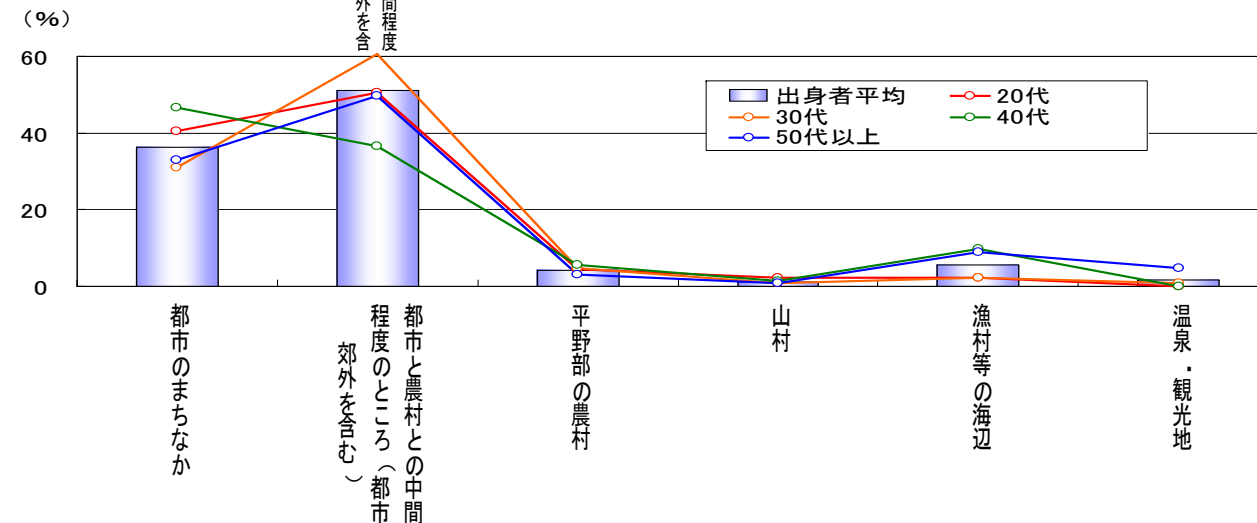
※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

- ・魅力ある都市や農山漁村:「都市のまちなか」や「都市・農村の中間」への二地域居住・定住希望が多い
- ・重層的に共存するコンパクトな地域を形成:「都市のまちなか」や「都市・農村の中間」での希望者が多く、都市部だけでなく、「海辺」や「温泉・観光地」に対する指向も高い

年代別二地域居住先



年代別定住先



# 出身者 アンケート（二地域居住・定住先としての魅力）

## 【結果概要】

- 二地域居住・定住先としての北陸圏域の魅力は「治安」「自然・街並み」「公害の少なさ」「建物や敷地の広さ」等があげられ、これらの高評価項目については、居住希望別でも大きな相違は少ない。
- 「職場に近いこと」や「就業機会」等は、「したくない」者で大きく落ち込むのに比べて、二地域居住や定住をしたい者では落ち込みが少なく、むしろこれらの面での実現性が、二地域居住や定住の推進の鍵になる可能性が高い。
- 買い物場所や学校・病院といった都市的機能の面では、二地域居住では比較的魅力が評価されているものの、定住になると評価が落ちており、二地域居住と定住での求める要素が相違していることが伺える。



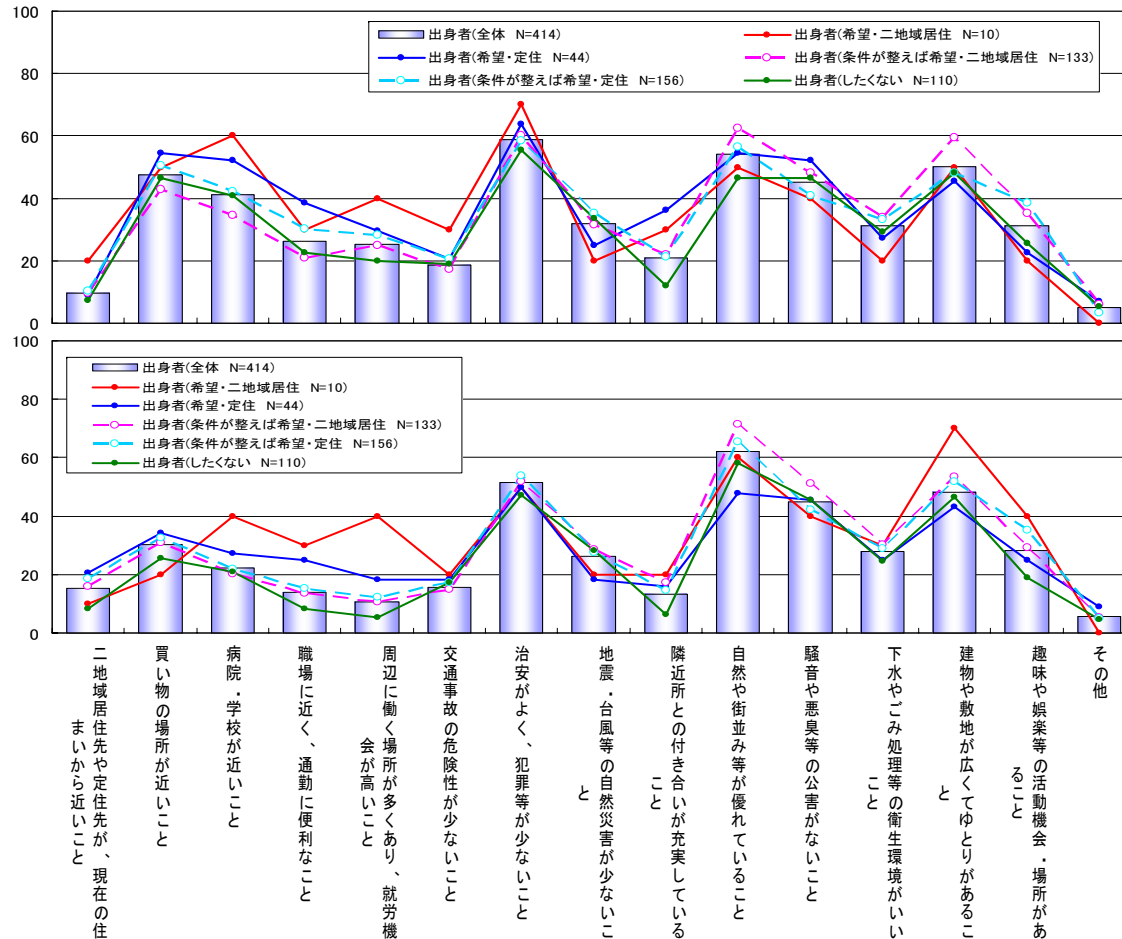
## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) 豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

北陸圏の魅力として高く評価されているもの

- ・優れた住環境:「治安」「自然・街並み」「公害の少なさ」「建物や敷地の広さ」「買い物場所」
- ・活力ある産業:「職場に近いこと」「就業機会」



二地域居住先としての北陸の魅力度  
(居住希望別)

定住先としての北陸の魅力度  
(居住希望別)

# 出身者 アンケート（二地域居住・定住先としての障害）

## 【結果概要】

- 二地域居住や定住先としての**障害**では、現在の住まいとの距離間のほかに、「買物」「病院・学校」「趣味や娯楽の場」といった**都市的サービスの不足**と「職場」「就労機会」といった**就労環境の2つが障害**として上げられており、これらは特に**定住意向のある者で顕著**であり、より現実的な検討の上での制約要因になる。
- こうした障害要因は総体的に定住の方が大きく、特に**就業機会が定住にあたっての障害として顕著**に生じている。
- また、特徴的な点として「したくない」者では障害要因として「隣近所との付き合い」を指摘する者が多く、大都市圏からの受け入れ促進には、これらの点への対応も課題として考えられる。

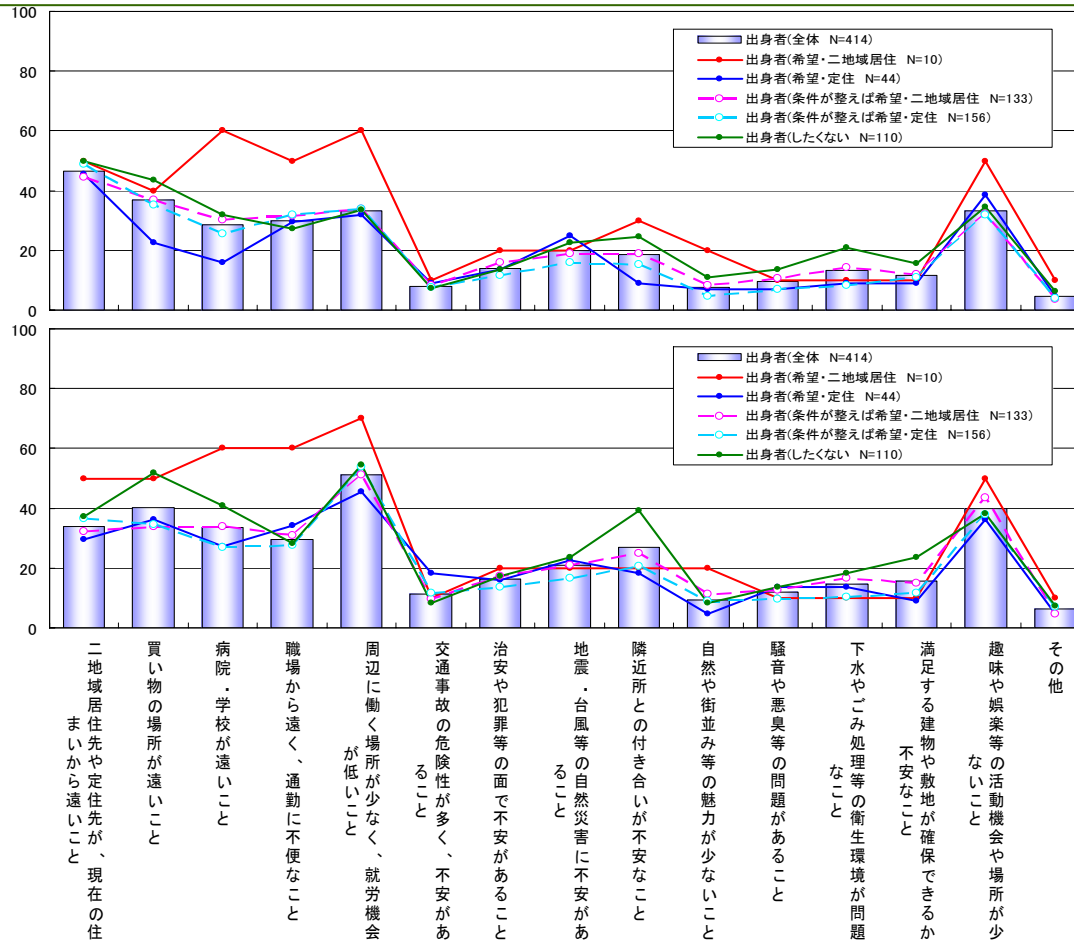
## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) 豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な**生活、就業、交流**などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

北陸圏において障害とされているもの

- ・生活: 「買物」「病院・学校」
- ・就業: 「職場」「就業機会」
- ・交流: 「趣味や娯楽の場」



二地域居住先としての北陸の問題(障害)

(居住希望別)

定住先としての北陸の問題(障害)

(居住希望別)



# 出身者 アンケート（二地域居住・定住推進のための圏域づくり）

## 【結果概要】

- 二地域居住・定住を推進していくためには、「物価が安い」「公共交通機関の充実」「おいしい水や農水産物」「道路網の充実」といった点が共通テーマとして上げられており、これらは居住者アンケートの結果とも概ね一致する。
- その他の項目では、一般的に「定住」にむけて検討すべき対応課題の方が多くあげられており、特に「雪に対する工夫」「シニア世代の就業や社会参加」「子育て環境」「産業集積」「文化施設・娯楽施設等」「教育の機会・施設」等の日常生活に密接した機能や機会の充実が定住促進のための特徴となっている。
- 一方、二地域居住では、「観光の充実」や「美しいまちなみ」といった、どちらかといえば非日常的な機能の強化も求められている。

## 【方針・戦略目標との関係】

(将来像1の文章記載部分) 豊かさや変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

圏域づくりとして高く望まれているもの

- ・生活:「物価が安い」「おいしい水や農水産物」「雪に対する工夫」「子育て環境」「教育の機会・施設」
- ・就業:「シニア世代の就業や社会参加」「産業集積」「教育の機会・施設」
- ・交流:「公共交通機関の充実」「道路網の充実」「シニア世代の就業や社会参加」「文化施設・娯楽施設等」

(戦略目標4-(1)) 全国や環日本諸国をはじめ諸外国との観光・交流の充実

※アンケート結果と赤字部分(反映箇所)との関連性

圏域づくりとして高く望まれているもの

- ・観光の充実:「観光の充実」「美しいまちなみ」

